2026年度 第6回（11月）北辰テスト対策 予想問題

国語（制限時間 50分・100点満点）

1 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。（28点）

中学三年生の「ぼく」（陸）は、父の仕事の都合で、十一月の終わりに遠くの町へ転校することになった。そのことを幼なじみの大地に打ち明けてから、一週間がたっていた。

転校のことを話したとき、大地は「ふうん。」と言っただけだった。それから一週間、大地は、テレビ番組の話や給食の献立の話ばかりして、ぼくの転校については一言もふれなかった。①まるで、ぼくがいなくなることなど、どうでもいいと言われているようだった。

学校へ行く最後の日、帰りの会が終わると、クラスのみんなが寄せ書きの色紙を渡してくれた。その輪の中に、大地の姿はなかった。昇降口で靴をはきかえていると、後ろから肩をたたかれた。

「陸、ちょっと土手に寄っていかないか。」大地だった。

小学生のころ、ぼくたちは毎日のように、川の土手の下の河原で水切りをして遊んだ。平たい石を低く投げて、水面を何回はねさせられるかを競うのだ。ぼくの記録は七回。大地は、どうしても五回を超えられなかった。

河原に着くと、大地は上着のポケットから、平たい石をいくつも取り出した。どれも手のひらにぴったり収まる、薄くて丸い石だった。②こんなにそろった石は、この河原を半日歩き回っても、なかなか見つからない。

「十回はねさせたら、言おうと思ってたことがあるんだ。」大地は、川のほうを向いたまま言った。

一投目は三回で沈んだ。二投目は四回。大地は黙って、次の石を構えた。投げるたびに大地の肩には力が入り、石は水面に突きささるように沈んでいく。ぼくは、何か言おうとして、やめた。最後の一つを投げ終えると、大地は、空になった両手をしばらく見つめていた。それから、急に笑い出した。

「だめだ。十回なんて、一生無理だな。」

笑い声が途切れたとき、大地は、ぼくのほうを見ずに言った。

「③この一週間、陸の転校のこと、話そうとすると、本当になっちゃう気がしてさ。だから、話せなかった。」

ぼくは、大地の横顔を見た。夕日に照らされたその頬が、少しこわばっていた。どうでもいいどころではなかったのだ。大地は大地で、この一週間、ずっと言葉を探していたのだ。

大地は、もう一方のポケットから、石をもう一つ取り出した。今まで投げたどれよりも薄く、きれいな形をしていた。「これは、投げないでとっておいたんだ。向こうにも川くらいあるだろ。そこで投げて、記録を更新したら、知らせてくれよ。」

④ぼくは、受け取った石を、強くにぎりしめた。思っていたよりもずっと冷たいその石が、手の中で、少しずつぼくの体温になじんでいった。

「八回はねたら、すぐに知らせる。」ぼくがそう言うと、大地は「十回にしろよ。」と言って、また笑った。

三日後、新しい町へ向かう電車の中で、ぼくは何度も上着のポケットに手を入れた。⑤指先にふれる石の平たさを確かめるたびに、窓の外を流れていく知らない景色が、少しだけこわくなくなる気がした。

（注）水切り……平たい石を水面すれすれに投げ、水の上を何度もはねさせる遊び。

問1 ①「まるで、ぼくがいなくなることなど、どうでもいいと言われているようだった」とありますが、このときの「ぼく」の心情を説明した文として最も適切なものを、次のア～エの中から一つ選び、その記号を答えなさい。（4点）

アテレビ番組や給食の話ばかりする大地にうんざりし、早く新しい町へ転校したいと思っている。

イ大地に転校のことを打ち明けたのはまちがいだったと後悔し、大地に謝ろうと考えている。

ウ大地が転校の話題に少しもふれようとしないので、自分との別れを何とも思っていないのではないかと感じ、さびしく思っている。

エ大地が転校のことを先生に知らせてくれなかったことに腹を立て、口をきかないでおこうと決めている。

問2 ②「こんなにそろった石は、この河原を半日歩き回っても、なかなか見つからない」とありますが、この表現から読み取れることとして最も適切なものを、次のア～エの中から一つ選び、その記号を答えなさい。（4点）

ア河原の石が年々少なくなり、二人が水切りをして遊べる場所がなくなってしまったこと。

イ大地が、水切りに向いた石を店で買いそろえ、「ぼく」を驚かせようとしていること。

ウ大地が、水切りで「ぼく」に負けたくないので、よい石を「ぼく」に使わせないようにしていること。

エ大地が、「ぼく」と水切りをするために、前もって時間をかけて形のよい石を探し集めていたこと。

問3 ③「この一週間、陸の転校のこと、話そうとすると、本当になっちゃう気がしてさ。だから、話せなかった」とありますが、この言葉を聞いた「ぼく」は、大地がこの一週間どのようにしていたことに気づきましたか。次の文の空欄にあてはまる言葉を、本文中から八字で抜き出して書きなさい。（4点）

「転校の話をしなかった大地は、どうでもいいと思っていたのではなく、この一週間、ずっと［　八字　］のだと気づいた。」

問4 ④「ぼくは、受け取った石を、強くにぎりしめた」とありますが、このときの「ぼく」の気持ちを次のようにまとめるとき、空欄にあてはまる内容を、別れ、記録の二つの言葉を使って、二十五字以上、三十五字以内で書きなさい。ただし、二つの言葉を使う順序は問いません。（6点）

「大地が、［　25字～35字　］ことがわかり、その思いをしっかり受け止めようとしている。」

問5 ⑤「指先にふれる石の平たさを確かめるたびに、窓の外を流れていく知らない景色が、少しだけこわくなくなる気がした」とありますが、このときの「ぼく」の心情を説明した文として最も適切なものを、次のア～エの中から一つ選び、その記号を答えなさい。（5点）

ア新しい町で大地よりも親しい友人ができると確信し、転校への不安がすっかりなくなっている。

イ新しい町への不安はあるものの、大地からもらった石にふれることで大地とのつながりを感じ、気持ちがやわらいでいる。

ウ新しい町の川で練習を重ね、いつか大地の記録を抜いてみせようと、闘志を燃やしている。

エ大地との別れがつらくなり、できることなら今すぐ電車を降りて、転校を取りやめたいと思っている。

問6 本文の内容や表現について述べた文として適切なものを、次のア～オの中から二つ選び、その記号を答えなさい。（5点）

ア会話文を用いず、地の文だけで「ぼく」と大地のやりとりを描いている。

イ「ぼく」の視点から語られており、大地の気持ちは、大地の言葉や表情、しぐさを通して描かれている。

ウ新しい町へ向かう電車の場面から始まり、大地との思い出を回想する形で物語が進んでいる。

エ力が入って水面に突きささるように沈んでいく石の様子が、言いたいことをなかなか言い出せない大地の緊張と重ねて描かれている。

オ季節を表す言葉を多く用いて、春の明るい光の中で別れを迎える二人の様子を印象づけている。

2

問1 ⑴ 次の――部の漢字には読みがなをつけ、かたかなは漢字に改めなさい。（各2点）

痛みを緩和する薬を飲む。（読み）

問1 ⑵（各2点） 大切な資料を携えて会場へ向かう。（読み）

問1 ⑶（各2点） 若い世代の読書のケイコウを調べる。（書き）

問1 ⑷（各2点） 心の中の不安をかくして、平静をヨソオう。（書き）

問2 ⑴ 次の⑴・⑵の――部のかたかなを漢字に表したとき、その漢字と同じ漢字を含むものを、あとのア～エの中からそれぞれ一つ選び、その記号を答えなさい。（各2点）

⑴ 新しい制度をドウニュウする。

ア広いドウロを渡る。

イ校庭でウンドウする。

ウ十円ドウカを拾う。

エ先生のシドウを受ける。

問2 ⑵（各2点） ⑵ 町の人口がゲンショウする。

ア 理想とゲンジツのちがい。

イ 戸じまりをゲンジュウにする。

ウ 大会に向けて体重をゲンリョウする。

エ 話し合いのゲンソクを決める。

問3 次の文の中にある付属語の数を、漢数字で書きなさい。（3点）

姉は、近所の店で、新しい靴を買ったそうだ。

問4 次のア～エの文の――部の二つの文節の関係が、補助の関係になっているものを一つ選び、その記号を答えなさい。（3点）

ア 机の上に本が　ある。

イ 黒板に名前が書いて　ある。

ウ 友人に手紙を　書く。

エ 白くて　やわらかいパンを買う。

問5 次のア～エの二つの言葉の組み合わせのうち、二つの言葉の意味の関係が他と異なるものを一つ選び、その記号を答えなさい。（3点）

ア 拡大―縮小

イ 安全―危険

ウ 永遠―永久

エ 義務―権利

問6 次の①～④の言葉を、国語辞典に載っている順に並べたものとして最も適切なものを、あとのア～エの中から一つ選び、その記号を答えなさい。（3点）

①きょう（今日）　②ぎょう（行）　③きよう（器用）　④きよい（清い）

ア ③→④→①→②

イ ④→①→③→②

ウ ②→①→④→③

エ ④→③→①→②

問7⑴三年二組の学級委員会では、稲刈り体験でお世話になった農家の木下さんに、クラスからお礼の手紙を送ることになりました。手紙は十一月の中ごろに出す予定です。次の【話し合いの様子】を読み、あとの⑴・⑵に答えなさい。

【話し合いの様子】

司会「今日は、木下さんへのお礼の手紙について話し合います。下書きを書いてくれた川口さん、読んでください。」

川口「はい。『拝啓　〔　Ⅰ　〕　木下様にはお元気でお過ごしのことと存じます。先日の稲刈り体験では、たいへんお世話になりました。』という書き出しです。」

中村「前文のあとに、体験で心に残ったことを書くといいと思います。クラス全員の感想をのせてはどうでしょうか。」

司会「三十五人分の感想を全部のせると、手紙が長くなりすぎませんか。」

中村「それなら、木下さんに教えていただいたことにふれた感想を三つほど選んで、のせるのはどうでしょう。」

川口「それなら、何に感謝しているのかがはっきり伝わりますね。」

司会「では、中村さんの案で進めましょう。」

⑴【話し合いの様子】の〔　Ⅰ　〕には、手紙の前文に書く時候の挨拶が入ります。手紙を出す時期にふさわしいものとして最も適切なものを、次のア～エの中から一つ選び、その記号を答えなさい。（2点）

ア若葉の緑がまぶしい季節となりました。

イ厳しい残暑が続いております。

ウ木々の葉も色づき、朝夕はめっきり冷えこむようになりました。

エ梅のつぼみもふくらみ、春の訪れが待たれるころとなりました。

問7⑵この話し合いで、中村さんはどのような役割を果たしていますか。その説明として最も適切なものを、次のア～エの中から一つ選び、その記号を答えなさい。（2点）

ア司会の指摘を受け止めて自分の案を改め、手紙にのせる感想について具体的な案を示している。

イ川口さんの下書きの言葉づかいの誤りを指摘し、正しい書き方を示している。

ウ出された意見を整理してまとめ、話し合いの結論を決めている。

エ司会の指摘に反対し、全員の感想をのせるべきだと主張し続けている。

3　次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。（28点）

教科書のある章を読み終えて、「よし、わかった」と思う。ところが翌日、友人に「あれ、どういうことだった？」と聞かれて説明しようとすると、思うように言葉が出てこない。だれにでも、そんな経験があるのではないだろうか。

①このとき、私たちは、本当はわかっていなかったのに、わかったと思いこんでいたのである。文章を読んでいる間は、書き手が話の順序を整え、一つ一つの事がらをつなぐ道筋を示してくれている。読み手は、その道筋の上を進んでいけばよい。そのため、自分の頭で道筋をつくり出していなくても、すらすら読めたというだけで、理解したような気持ちになりやすいのである。

これは、車の助手席に座って、知らない町を走るときに似ている。運転する人に任せて座っていれば、目的地には着く。窓の外の景色も、なんとなく覚えている。しかし、帰りに自分でハンドルを握ろうとすると、どの角で曲がったのかが思い出せない。②道を「見た」ことと、道を「たどれる」ことは、別のことなのである。

人に説明するということは、この「自分でハンドルを握る」ことにあたる。説明するとき、私たちは、頭の中にばらばらに入っている知識を取り出し、どれを先に話し、どれとどれをどうつなぐかを、自分で決めなければならない。そして、そのつなぎ目がうまくつながっていない所で、言葉は止まってしまう。

つまり、説明の途中で言葉に詰まる所は、自分の理解がまだつながっていない場所を正確に教えてくれる目印なのである。③詰まることを、恥ずかしいと思う必要はない。聞き手から「それはなぜ？」と問い返されて答えられないときも同じである。その問いは、自分では気づけなかった理解のすき間を、外から照らしてくれているのだ。

もちろん、説明しさえすれば、だれでも理解が深まるというわけではない。教科書の文をそのまま覚えて、すらすらと口にしたとしても、それは書き手のつくった道筋をなぞっているにすぎない。大切なのは、自分の言葉に置きかえたり、身近な例を挙げたりしながら、知識と知識のつながりを、自分の手でつくり直してみることである。

こう考えると、④「わかる」とは、ある時点で手に入れて終わりになるものではないことが見えてくる。説明しようとして詰まり、調べ直し、もう一度説明してみる。そのくり返しの中で、知識どうしのつながりは少しずつ太く、確かなものになっていく。

「わかった」と思ったときこそ、だれかに説明してみるとよい。言葉に詰まった所から、次の学びが始まるのである。

問1 ①「このとき、私たちは、本当はわかっていなかったのに、わかったと思いこんでいたのである」とありますが、筆者は、なぜこのような思いこみが起こると述べていますか。その理由として最も適切なものを、次のア～エの中から一つ選び、その記号を答えなさい。（4点）

ア 教科書の内容がやさしすぎて、自分の頭で考える必要がまったくなかったから。

イ 友人の質問のしかたがあいまいで、何を答えればよいのかがわからなかったから。

ウ 一度読んだだけで、教科書の文を一字一句まちがえずに暗記できたから。

エ 書き手が示した道筋をたどってすらすら読めたことで、自分で道筋をつくっていないのに、理解した気持ちになったから。

問2 ②「道を『見た』ことと、道を『たどれる』ことは、別のことなのである」とありますが、筆者は、学ぶ場面で道を「たどれる」ことにあたるのは、どのようなことだと述べていますか。次の文の空欄にあてはまる言葉を、本文中から六字で抜き出して書きなさい。（4点）

「学んだ内容を、［　　六字　　］ことができること。」

問3 ③「詰まることを、恥ずかしいと思う必要はない」とありますが、筆者がこのように述べるのはなぜですか。次のようにまとめるとき、空欄にあてはまる内容を、目印、つながりの二つの言葉を使って、三十字以上、四十字以内で書きなさい。ただし、二つの言葉を使う順序は問いません。（6点）

「説明の途中で言葉に詰まる所は、［　30字～40字　］から。」

問4 ④「『わかる』とは、ある時点で手に入れて終わりになるものではない」とありますが、筆者は「わかる」とはどのようなものだと考えていますか。その説明として最も適切なものを、次のア～エの中から一つ選び、その記号を答えなさい。（5点）

ア一度わかったことも時間がたてば忘れてしまうので、同じ内容を何度も暗記し直さなければならないもの。

イ説明しようとして詰まり、調べ直して、もう一度説明することをくり返す中で、少しずつ確かになっていくもの。

ウ先生から正しい説明を聞くことで、はじめて手に入れることができるもの。

エ特別な努力をしなくても、年齢を重ねれば自然に深まっていくもの。

問5 「これは、車の助手席に座って、知らない町を走るときに似ている。」で始まる段落の働きを説明したものとして最も適切なものを、次のア～エの中から一つ選び、その記号を答えなさい。（4点）

ア前の段落で述べた「わかったつもり」の状態を、身近なたとえを用いて言いかえ、わかりやすくしている。

イ前の段落で述べた内容に反対する考えを示し、筆者の主張を改めている。

ウ運転についての調査の数字を示して、前の段落の内容が正しいことを証明している。

エ学ぶことから車の運転へと話題を移し、安全な運転の大切さを述べている。

問6 本文の内容として最も適切なものを、次のア～エの中から一つ選び、その記号を答えなさい。（5点）

ア教科書の文を正確に覚えてすらすら口にできるようになれば、理解は十分に深まったといえる。

イ説明の途中で言葉に詰まったら、それ以上説明するのはやめて、教科書を読み直すことに集中すべきである。

ウ自分の言葉や身近な例を使って人に説明しようとし、詰まった所を手がかりに学び直すことで、理解は確かなものになっていく。

エ文章を読むことは学びに役立たないので、人に説明することだけを通して学ぶべきである。

4 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。（16点）

次の文章は、『土佐日記』の書き出しの部分です。作者の紀貫之は、土佐の国（今の高知県）を治める役人としての任期を終え、京へ帰る旅のようすを、女性が書いたという形でつづっています。

男もすなる日記①といふものを、女もしてみむとて、するなり。それの年の十二月の二十日あまり一日の日の、②戌の時に門出す。そのよし、いささかにものに書きつく。

ある人、県の四年五年果てて、例のことどもみなし終へて、解由など取りて、住む館より出でて、舟に乗るべき所へ渡る。かれこれ、知る知らぬ、送りす。③年ごろよくくらべつる人々なむ、別れ難く思ひて、日しきりにとかくしつつ、ののしるうちに夜更けぬ。

二十二日に、和泉の国までと、平らかに願立つ。藤原のときざね、船路なれど馬のはなむけす。上中下、酔ひ飽きて、いとあやしく、潮海のほとりにてあざれあへり。

（『土佐日記』による）

（注）すなる……（男も）書くという。　してみむとて……書いてみようと思って。　それの年……ある年。　二十日あまり一日の日……二十一日。　門出す……旅に出発する。　そのよし……そのようす。　ある人……作者の紀貫之のことを指す。　県の四年五年果てて……地方の役人としての四、五年の任期が終わって。　例のことども……いつも決まって行う、引きつぎの仕事など。　解由……任務を終えたことを証明する書類。　年ごろよくくらべつる人々……長年親しくつきあってきた人々。　日しきりにとかくしつつ……一日中あれこれと世話をしながら。　ののしる……大声で騒ぐ。　平らかに願立つ……（和泉の国まで）無事であるようにと神仏に祈る。　馬のはなむけ……旅立つ人を送るためのもてなし。　上中下……身分の高い人も中くらいの人も低い人も、みな。　あざれあへり……ふざけ合っていた。

問1 ①「といふもの」を、現代仮名遣いに直して、すべてひらがなで書きなさい。（4点）

問2 ②「戌の時」は、現在のおよそ何時ごろにあたりますか。最も適切なものを、次のア～エの中から一つ選び、その記号を答えなさい。（4点）

ア午前四時ごろ
イ午前八時ごろ
ウ午後四時ごろ
エ午後八時ごろ

問3 この文章を読んだあと、授業で次のような会話をしました。〔Ⅰ〕にあてはまる十二支として最も適切なものを、あとのア～エの中から一つ選び、その記号を答えなさい。（4点）

【授業での会話】

Aさん「作者たちが門出したのは戌の時なんですね。」

先生「そうです。昔は、一日を十二に分け、十二支を順に当てはめて時刻を表しました。真夜中の午前零時ごろを中心とする二時間が『子の時』です。」

Bさん「すると、朝の六時ごろは〔　Ⅰ　〕の時ということになりますね。」

先生「そのとおりです。」

ア寅
イ卯
ウ辰
エ酉

問4 ③「年ごろよくくらべつる人々なむ、別れ難く思ひて、日しきりにとかくしつつ、ののしるうちに夜更けぬ」とありますが、人々が夜が更けるまで騒いでいたのはなぜですか。次のようにまとめるとき、空欄にあてはまる内容を、現代語で十字以上、二十字以内で書きなさい。（4点）

「長年親しくつきあってきた人々が、［　　10字～20字　　］から。」

（以上で問題は終わりです。）